



ユネスコエコパークに登録された、静岡市井川と川根本町の魅力を伝える、地域でつくる新聞

井川と川根を いかわね新聞 No.3

笑顔が集う おこもり

いかわね新聞第3号 2016年3月1日発行(年3回発行)
発行：南アルプスユネスコエコパーク静岡地域連携協議会
〒420-8602 静岡市葵区追手町5の1 静岡市環境創造課内
TEL 054(22)1357

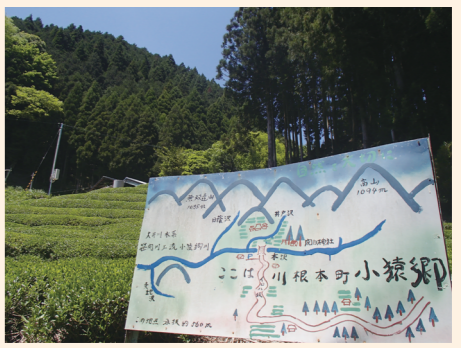
【会員】静岡森林管理署、天竜森林管理署、静岡市、静岡市、川根本町、(株)特種東海フオレスト、中部電力株静岡支店、しずてつジャストライン株、川根本町森林レクリエーション推進協議会、自然公園指導員、井川観光協会、川根本町まちづくり観光協会、南アルプス・井川エコツーリズム推進協議会、川根本町エコツーリズムネットワーク

【会の紹介】南アルプスユネスコエコパーク静岡地域連携協議会は、南アルプス周辺地域の自然環境の保全と文化の継承を図り、その持続可能な活用を推進することを目的とした協議会です。※この新聞では、川根本町の情報を「かわね」と表記しています。



「おすすめスポット」で紹介した奥大井の秘境・小猿郷。その守り人が高橋さんです。昔は7軒あった民家が、今は1軒(住民1人)のみ。高橋さん自身も30年ほど前に静岡市へ移り住みました。それでも毎日、片道35kmの距離を通い、無農薬のお茶、野菜、シイタケなどを栽培しています。相棒は、自らが「エンディングカー(生涯最後の車)」と呼ぶ軽トラの新车。お茶時には奥さんと二人でお茶刈りをする姿も。いつ行っても小猿郷の風景が生きていてくれるのは、高橋さんがここを守ってくれているからですね。

いかわねの人々 Vol.3 高橋章夫さん(川根本町)



高橋さん作の小猿郷マップ

「私の一番大切な場所。ここに居ると時間が止まったように感じる。そのくせ一日はすぐに経ってしまう。」と高橋さん。故郷への想いは集落のあちらこちらに現れています。集落入口には手書きの地図。樹齢200年以上の夫婦杉がある関白神社を祀り、年に一度の祭典時に故郷に戻ってくる人たちを「おかえり」と温かく迎えてくれます。「ここを気に入って訪れてくれる人がいるのがうれしい。」少しでも多くの人に小猿郷のことを知ってほしいと、自作のホームページで情報発信も。そこを見れば小猿郷の季節の移り変わりを感ずることが出来ます。

文・写真 神東美希

井川の観光案内、伝統文化やイベント情報を発信する拠点として平成6年に井川本村にオープンした「井川観光会館」。訪れた人たちがゆっくりできるという思いで、約6千冊の絵本が揃う「えほんの郷」としても親しまれてきました。そんな「井川観光会館」が、名前を「南アルプスユネスコエコパーク井川ビジターセンター」に変え、展示内容を



エコパーククロスロード完成予想図

一新して、3月29日に新装オープンします。食文化や伝統工芸、特産品などを紹介する「井川コレクションシウォール」や、南アルプスの自然を体感できる「エコパーククロスロード」など、充実した展示が目白押し。レストランでも、新しいメニューを研究中です。「訪れた人にぜひ井川とエコパークを知ってもらいたい！」だけでなく、地域の皆さんが自然と集まるような、あたたかな憩いの場になればと思います。ぜひ、新しくなったビジターセンターにお越しください。

3/29(火) 新しく生まれ変わります

2016 3月~ イベントカレンダー

3月	13日(日)	かわね	お茶の里ファミリーマラソン
	29日(火)	いかわ	井川ビジターセンターオープニングセレモニー
	下旬	かわね	春を呼ぶ天狗まつり
	上旬	かわね	徳山さくら祭り
	中旬	かわね	川根茶の日・献茶式
4月	下旬	いかわ	リバウエル井川春スキーオープン
	29日(金・祝)	いかわ	赤石温泉まつり(白樺荘)
	29日(金・祝)	いかわ	二軒小屋ロッジ・榎島ロッジ営業開始
	1日(日)	いかわ	春まつり in井川ビジターセンター
5月	4日(水・祝)	いかわ	あまごの里 釣りまつり
	中旬	いかわ	リバウエル井川羊毛刈り体験
6月	上旬	かわね	ホテル観賞

※予定は変更される場合があります。詳しくは下記までお気軽にお問合せください。
井川観光協会 ☎054-260-2377
川根本町まちづくり観光協会 ☎0547-59-2746



井川には各地に観音様や薬師様、地藏様がまつられ、二月には、「お籠り(おこもり)」又は「お子守」と称して、一晩中お堂で過ごすお祭りが行われます。いわゆる「修正会(しゅしょうえ)」と呼ばれる、仏教寺院で行われ、前年を反省して悪を正し、五穀豊穰などを祈願する年始のおまつりの一つで、それぞれのお堂によって受け継がれてきたしきたりがあります。毎年一月六日の夕方から七日の朝にかけてお籠りが行われる中野観音堂。今年も読経と観音様の御開帳が行われ、参拝に集まった住民が、食べるとその年は風邪をひかないと言われている芋田楽を囲みながら、賑やかに歓談していました。一月十四日には、子どもを守ってくれる地藏様がまつられている門間地藏堂でお籠りが行われ、星が輝く寒空の下で子どもたちが元気に走り回り、大人たちは目の前にある公民館でお酒を飲みおでんを食べながら夜遅くまで楽しんでいました。今では一晩中過ごすことは稀ですが、昔は露店が出たり、子どもたちがお堂でかくれんぼや馬跳びをしながら夜を明かすことができる特別な日だったとか。お籠りは、井川の様々な地域で今でも続いている、柔らかい明かりが灯り、笑い声が響く、井川の冬の風物詩です。

※①読経と談笑が響く田代薬師堂 ②地藏堂では子供たちの笑い声が響き渡る ③中野観音堂にて芋田楽を囲み集う人々 ④明かりが灯された地藏堂は夜でも暖かい ⑤おでんを囲みながら ⑥辛子みそをつけていただく芋田楽

